

第2章 市の概況

第1節 位置と地勢

本市は、関東平野の中央、埼玉県の北部に位置し、東は行田市、鴻巣市、西は深谷市、南は東松山市、吉見町、滑川町、嵐山町、北は群馬県に接しています。

市域は、東西に約14km、南北に約20km、面積159.82km²であり、東京都心までは、50から70km圏にあります。

市の南部に荒川、北部に利根川があり、日本を代表する2つの河川が流れています。市域の大半が平坦な地形ですが、西部は楡挽台地、南部は江南台地及び比企丘陵の北縁に当たり少し標高が高くなっています。



図2-1 市の位置図

第2節 人口の推移

1 総人口

本市の住民基本台帳人口は、平成30年4月1日の時点で197,861人です。

平成24年から平成29年において高齢者人口が増加する反面、総人口は減少傾向にあります。

表2-1 人口の推移

単位：人

分類 年	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	合計
H24(2012)	25,613	131,288	46,723	203,624
H25(2013)	25,158	128,682	48,699	202,539
H26(2014)	24,874	126,291	50,622	201,787
H27(2015)	24,454	124,191	52,100	200,745
H28(2016)	24,027	122,360	53,590	199,977
H29(2017)	23,566	120,665	54,735	198,966

※環境省の統計に基づき、各年の人口は10月1日現在の人口です。

資料：熊谷市年齢別人口集計

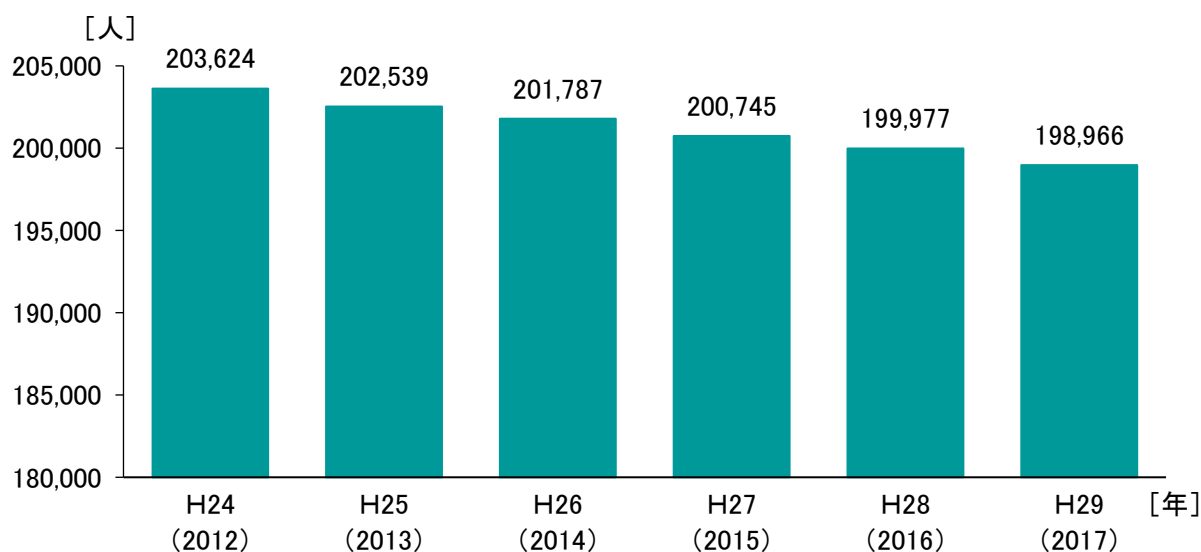


図2-2 人口の推移

2 年齢別の人口構成

年齢別の人口構成では、年少人口（14歳以下）の構成比は、平成24年の12.6%から、平成29年には11.8%へと減少し、同様に生産年齢人口（15歳から64歳）の構成比も平成24年の64.5%から、平成29年には60.6%へと減少しています。一方、高齢者人口（65歳以上）の構成比は平成24年の22.9%から、平成29年には27.5%へと増加しています。

表2-2 年齢別の人口構成

単位：%

年	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)
H24(2012)	12.6	64.5	22.9
H25(2013)	12.4	63.5	24.0
H26(2014)	12.3	62.6	25.1
H27(2015)	12.2	61.9	25.9
H28(2016)	12.0	61.2	26.8
H29(2017)	11.8	60.6	27.5

資料：熊谷市年齢別人口集計

※小数点第二位で四捨五入を行っているため合計と内訳が同じにならない場合があります。

※各年の人口構成の数値は、10月1日現在の数値です。

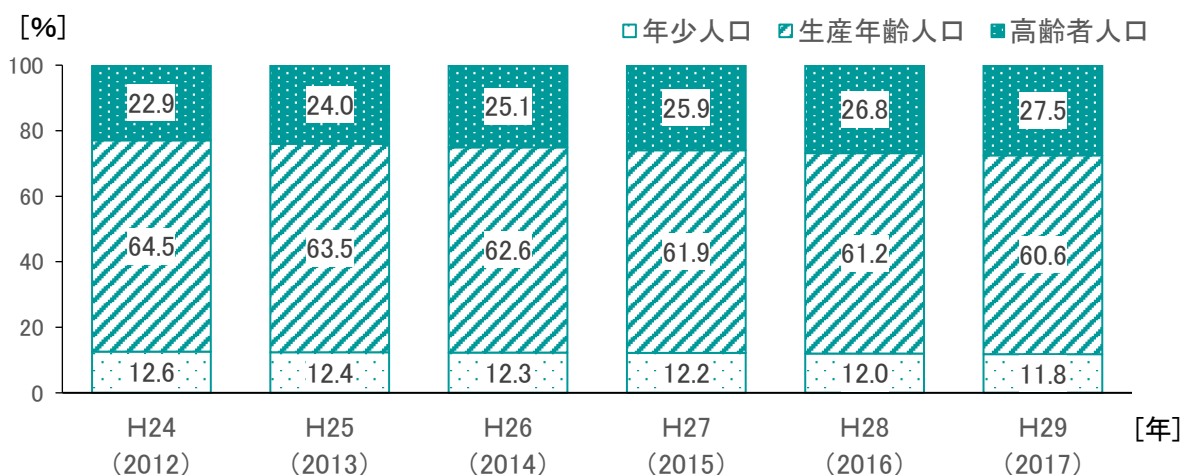


図2-3 年齢別の人口構成

第3節 産業の動向

1 事業所数と従業者数の推移

本市の産業分類ごとの事業所数及び従業者数を示します。平成28年度の事業所数の比率は第一次産業0.3%、第二次産業17.4%、第三次産業82.3%で分布しています。平成18年度から平成28年度にかけて、第一次産業事業所数はおおむね横ばいに推移していますが、第二次産業事業所数は約15.5%減少し、第三次産業事業所数は約13.5%減少しています。また、全体の従業者数は約11.8%減少しています。

表2-3 産業分類別事業所数及び従業者数の推移

単位：事業所（事業所数）・人（従業者数）

年度	事業所数				従業者数
	第一次産業	第二次産業	第三次産業	合計	
H18(2006)	20	1,678	7,746	9,444	93,557
H21(2009)	21	1,706	7,467	9,194	89,659
H24(2012)	23	1,564	6,944	8,531	87,755
H26(2014)	22	1,496	7,001	8,519	89,982
H28(2016)	24	1,418	6,698	8,140	82,550

※H18(2006)は旧江南町の事業所数・従業者数を加算しています。

資料：H18年企業統計調査

H21・H26年経済センサス基礎調査

H24・H28年経済センサス活動調査

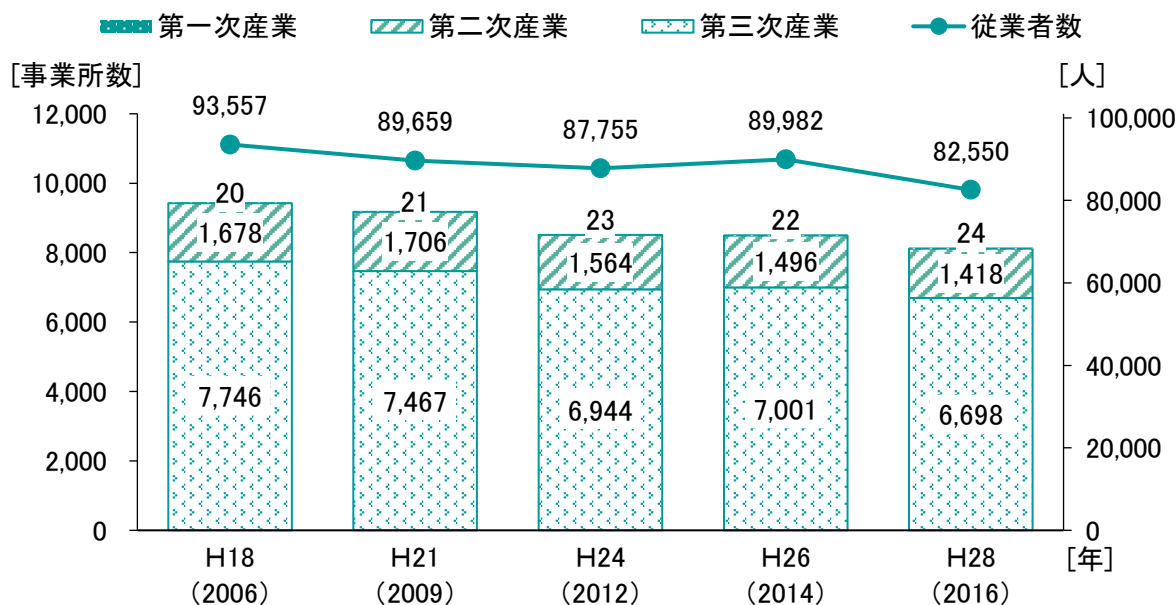


図2-4 産業分類別事業所数及び従業者数の推移

2 産業構造

平成 28 年度における産業構造を示します。第一次産業は、「農業，林業」のみで構成され 0.3% となっています。第二次産業では「建設業（10.3%）」「製造業（7.1%）」の順に事業所比率が高くなっています。第三次産業では「卸売業，小売業（26.4%）」「宿泊業，飲食サービス業（12.5%）」「生活関連サービス業，娯楽業（9.5%）」が上位 3 位で事業所比率が高くなっています。

表 2-4 平成 28 年度 産業構造と内訳

大分類	小分類	事業所数	比率 (%)	従業者数	比率 (%)
第一次産業	農業，林業	24	0.3	219	0.3
	漁業	0	0.0	0	0.0
	小計	24	0.3	219	0.3
第二次産業	鉱業，採石業，砂利採取業	1	0.01	4	0.005
	建設業	838	10.3	4,978	6.0
	製造業	579	7.1	13,912	16.9
	小計	1,418	17.4	18,894	22.9
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	5	0.1	201	0.2
	情報通信業	62	0.8	731	0.9
	運輸業，郵便業	194	2.4	5,253	6.4
	卸売業，小売業	2,152	26.4	17,724	21.5
	金融業，保険業	150	1.8	2,605	3.2
	不動産業，物品賃貸業	391	4.8	1,371	1.7
	学術研究，専門・技術サービス業	347	4.3	2,118	2.6
	宿泊業，飲食サービス業	1,017	12.5	7,547	9.1
	生活関連サービス業，娯楽業	777	9.5	3,702	4.5
	教育，学習支援業	318	3.9	2,504	3.0
	医療，福祉	665	8.2	10,725	13.0
	複合サービス事業	42	0.5	545	0.7
	サービス業（他に分類されないもの）	578	7.1	8,411	10.2
	小計	6,698	82.3	63,437	76.8
合計	8,140	100.0	82,550	100.0	

資料：経済センサス活動調査

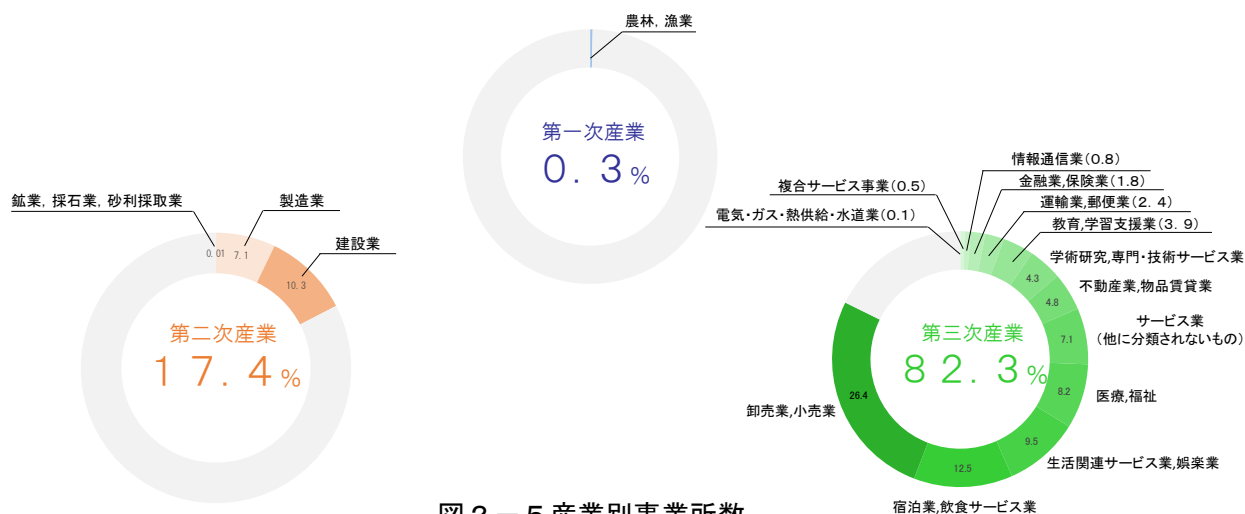


図 2-5 産業別事業所数

第4節 土地利用状況

本市の土地利用状況を示します。平成14年から平成29年にかけて全体的に横ばいの推移となっており、本市では「田」が多く面積を占めています。

表2-5 地目別面積

単位：ha

地目 \ 年	H14 (2002)	H19 (2007)	H24 (2012)	H29 (2017)
田	3,958.4	3,885.0	3,828.2	3,776.5
畑	2,795.1	2,732.6	2,644.5	2,576.3
宅地	3,403.3	3,307.4	3,456.5	3,570.6
池沼	29.5	31.2	31.1	30.7
山林	522.0	521.7	502.8	482.5
原野	36.9	42.3	38.8	36.9
雑種地	918.1	923.3	1,159.3	1,175.4
その他	4,324.8	4,544.5	4,326.8	4,339.1

※平成14年は旧熊谷市、旧大里町、旧妻沼町、旧江南町の値を合計しています。

資料：埼玉県統計年鑑

※平成19年は熊谷市、旧江南町の値を合計しています。

※各年度の地目別面積は1月1日付けです。

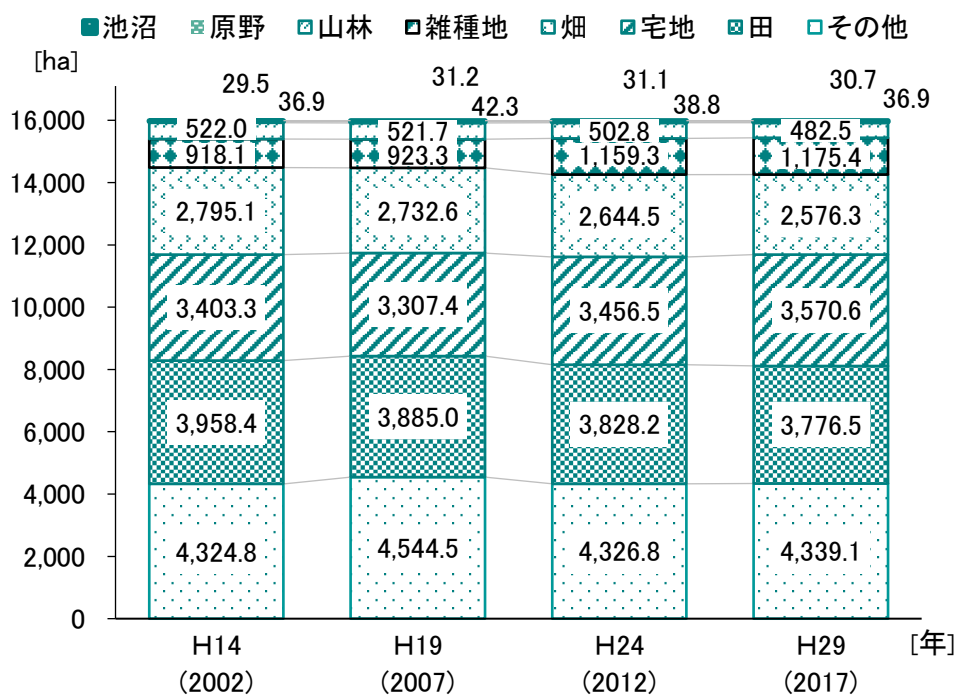


図2-6 地目別面積の推移